

知行合一

学校教育目標

夢実現
潤いと輝きにあふれる学校

芦北町立田浦中学校だより 第8号

令和3年11月22日

文責 校長 沖田 龍藏

「後生（こうせい）畏（おそ）るべし。焉（いづく）んぞ来者の今に如（し）かざるを知らんや。」【論語】は、「若者たちは驚くべき存在だ。これからの人材が自分たちより劣っていると言えるのか」の意味。

キャリア教育講話(KAB田中アナウンサー・自衛隊熊本地方協力本部水保

地域事務所中村所長)で自分の将来の生き方について考えた田浦中生徒！

11月も先月に引き続き、コロナ禍にあっても感染対策を取り、学校行事と研究授業等を実施しながら、生徒の仲間づくりと確かな学力の育成に力を入れてきました。



2日（火）は、本校卒業生のKAB田中アナウンサーに、中学時代にどんな夢（将来の職業）を抱いていたか、その実現に向けて、どのような努力をしてきたかを語っていただきました。中学時代は、立岡選手（本校卒業生：読売巨人軍）と同じくプロ野球選手を目指し、「文武両道」に励んだとのことでした。その後は、弁護士、そして、大好きな野球のテレビ中継ができるアナウンサーという職業を見つけ、今に至っているとありました。皆さんも中学時代にどのような職業に就き、生計を立てていくかを考えてみることはとても大切

です。田中先輩のように、大好きな野球がベースにあって、高校、大学と進学していったそのステージで、自分が学生としてやるべきこと（勉学）から逃げずに、直向きにやり抜いていくことが夢の実現につながることを理解したのではないかと思います。18日（木）には、自衛隊、中村所長の講話から、国防は勿論のこと、地域住民の生命と安全な暮らしを守ることを本分として職務にあたっており、地域住民とともにある自衛隊を目指しておられることがわかりました。昨年の県南豪雨災害後、自衛官や消防署員、行政職員等の活躍と住民の頑張りによって、町内も日常を取り戻しつつあります。所長に同行された若い自衛官は、熊本地震の際、自分のことは後回しにし、被災者のために動き回られる隊員の姿に感銘を受け、将来の職業（自衛官）を決意したと語っておられました。キャリア教育講話を通して、生徒は職業人としての自立した大人の生き方にふれ、自己の将来を自分で設計する機会を得たと思います。また、感染状況を見ながら、4日（木）は、管内教科等研究会（道徳）で尾川教諭が、「ホスピス」（2の1）を題材に「命」について考える研究授業を行いました。グループ活動でよく話し合いができていました。19日（金）は同じく教科等研究会（音楽）で小森教諭が「浜辺の歌」（1の1）を題材に研究授業を行いました。教職員も授業改善にしっかり取り組んでいます。5日（金）には、上田先生（元本校勤務の音楽教師）ご夫婦に審査とピアノ演奏をお願いし、校内合唱コンクールを実施しました。短い練習期間にも関わらず、各学年ともに素晴らしいハーモニーを奏でていました。結果は3年生が金賞、2年生が銀賞、1年生が銅賞、指揮者賞は串山妃七さん、伴奏者賞は田端麟さんが受賞しました。保護者の皆様には、入場制限にご協力いただきありがとうございました。生徒の頑張りで感動を届けられたかと思います。



「心のアンケート」を実施します！

今週、1・2年生は期末テストですが、初日の24日（水）に「心のアンケート」を取り、学校全体でいじめを許さない学校、学級づくりに努めていきます。日頃から生活アンケートや教育相談を実施し、いじめの早期発見に努めていますが、これは県下一斉の取組になります。また、同時に「子どものサイン発見チェックリスト」もご家庭に配付しますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

「田浦中学校HP」で検索を 随時情報発信！